

# 友だちと楽しくかかわることのできる児童の育成

## I はじめに

## II 実践のねらい

## III 実践の方法

- 1 対象
- 2 基本的な考え
- 3 各実践のすすめ方

## IV 実践の内容

- 1 日常実践「今日のキラリで賞」
- 2 授業実践① 気付きワーク「みんなは編集長」
- 3 授業実践② 気付きワーク「このお店は何だろう」
- 3 授業実践④ かかわりワーク「ミッションビンゴ」

## V おわりに

## 研究の概要報告

### 1 県内の自主的な研究活動のとりくみ状況

素直で従順だが主体性に乏しい。自己肯定感が低い。他者とかかわることが苦手。そんな現代の子どもたちをたくましい姿に導くことは、教員の大きな役割である。愛知県内では、子どもたちに合った支援をすることに重点を置いた教育にとりくんでおり、多くの学校で自治的活動について研究されている。

第73次教育研究愛知県集会における本分科会での研究討論の主題を「たくましく生きる子どもを育てよう」と設定し、主題に迫るために次の3つの柱立てをもとにした全17本のレポートが報告された。

### 2 本次県教研で論じられた主要な課題

#### (1) 子どもの気持ちを大切に、実感を把握した上でよりよい人間関係を築くためにどのような活動を展開していくのか

(1)の柱立てにかかわるレポートは6本。自分や他者のよさを認め合う活動の工夫、地域とかかわり仲間と協働する実践、生活防災に特化した実践が報告された。討論ではSSTを通して自分の考えを伝えるための経験を増やしたり、意図的に友だちとかかわる時間を設定したりするなど、教員の支援が必要であること。さらに、子どもが地域の魅力や防災対策に関心をよせるための工夫が話題となった。

#### (2) 心理的な背景や発達段階をふまえ、子どもたち一人ひとりをどのように理解し、支援していくのか

(2)の柱立てにかかわるレポートは5本。レジリエンスを育成するための実践、言葉を大切に子どもどうしのかかわりを増やすとりくみ、子どもが実態を把握しクラス会議を通して活動する実践が報告された。討論では、子どもの内面をどう理解して支援をしていくかの工夫や、教員自身も見本を示しながら積極的にかかわっていくことの重要性などが話題となった。

#### (3) どのようにして、集団の質を高めていくのか

(3)の柱立てにかかわるレポートは6本。学級や自己の目標を設定し、話合いや認め合いによって集団を高めていく実践や、学校の教育目標を見直し自主的な児童会活動のとりくみ、関係活動の活性化をはかる実践が報告された。討論では、全員が学級の目標を自分事としてとらえることの大切さが話題となった。また目標を立て学級でとりくむことは個人も高めることができ、さらに学級としての安心感も生まれると語られた。

全17本のレポート発表をもとにした質疑・応答・討論後、集団の質を高める中で個を育てるための工夫について総括討論を行った。目標や目的を学級で共有し、一人ひとりが活躍できる場をいかに設定するかについて、参加者の実体験から具体的に語られた。さらに、さまざまな活動を通して自分や友だちのよさを認め合い、伝え合うことの大切さが語られた。各地域のとりくみをもとに、多様な意見が出され、さまざまな学びを提供する集会となった。

(竹川慎哉・菅沼友香)

## 報告書のできるまで

第73次教育研究集会「自治的諸活動と生活指導」分科会は、10月21日愛知県産業労働センターで開かれた。第72次教研までの成果と課題にたち「たくましく生きる子どもを育てよう」をテーマに、次の柱立てにより討議された。

- 1 子どもの気持ちを大切にし、実態を把握した上で、よりよい人間関係を築くためにどのような活動を展開していくのか
- 2 心理的な背景や発達段階をふまえ、子どもたち一人ひとりをどのように理解し、支援していくのか
- 3 どのようにして、集団の質を高めていくのか

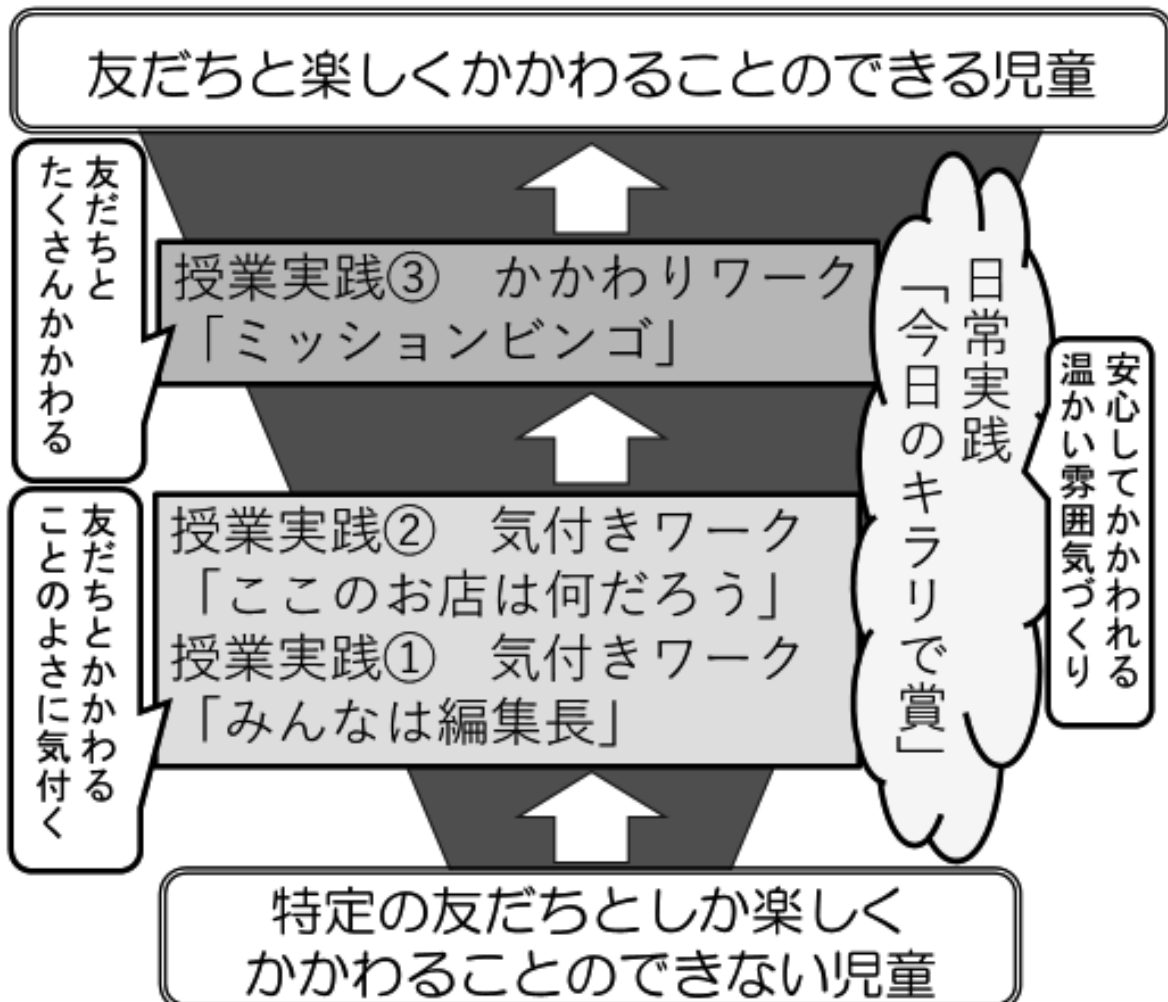
数多くの具体的実践をもとに、問題点を掘り起こし、研究協議を積み重ねた。この報告書は、その成果と課題を中心に作成したものである。

|      |                   |                 |
|------|-------------------|-----------------|
| 助言者  | 竹川 慎哉 (愛知教育大学)    | 菅沼 友香 (岡崎・城南小)  |
| 教育課程 | 小檜山 亮 (海部・甚目寺南中)  | 大橋 史人 (名古屋・明治小) |
| 研究委員 | 神谷 淳一 (碧海・高浜中)    | 小島 健司 (名古屋・赤星小) |
|      | 岡戸 信輔 (知教連・加木屋南小) | 小野 覚 (豊田・童子山小)  |
|      | 羽根田知樹 (名古屋・平針南小)  | 浅野 和也 (西春・清州中)  |
|      | 松下 裕哉 (名古屋・千鳥小)   | 蟹江 陽平 (岡崎・男川小)  |
|      | 竹田 裕亮 (海部・立田南部小)  | 皆川 博之 (名古屋・名塚中) |

## 報告書の要点

本学級（3年3組）には、男子13人、女子14人、合計27人が在籍している。何事にも真面目にとりくむことができ、友だちに優しく、活動に一生懸命にとりくもうとする児童が多い。しかし、いつもと違うペアやグループの活動になると、特定の友だち以外とはかかわろうとせず、時にはグループの中で孤立してしまう状況となり、グループが気まずい雰囲気のまま活動を終わってしまうことがあった。これは、児童が安心して友だちとかかわることができていないことや、友だちのよさに気付いておらず、友だちと楽しくかかわることができていないことが原因だと考えた。

そこで、安心して友だちとかかわれるようにするために温かい雰囲気づくりが必要だと考え、日常実践「今日のキラリで賞」を継続的に行った。また、友だちとかかわることのよさに気付く「気付きワーク『みんなは編集長』『ここのお店は何だろう』」を行い、友だちと協力しながら活動することの楽しさと達成感を味わい、友だちとかかわることのよさに気付けるようにした。最後に、友だちとたくさんかかわる「かかわりワーク『ミッションビンゴ』」の実践を行い、さらに多くの友だちとの活動を重ね、かかわることのよさを実感し、友だちと楽しくかかわることができる児童を育てたいと考えた。



これらの活動を中心に、実践にとりくんだことで、グループ活動で孤立する児童や、特定の友だちとしか話さない児童はあまり見かけなくなった。

## I はじめに

本校は、愛知県名古屋市西部に位置している。また、名古屋駅に近く、都市部であるため、マンションなどに新しく移住してきた家族が多くみられる。一方で一戸建ても多く、古くから住んでいる家族も多々みられ、保護者の出身地はさまざまである。本校は、素直で真面目な子どもが多く、穏やかな土地柄である。全校の児童が400人を超え、各学年が3、4クラスと、クラス替えの際、新しい友だちと出会う機会が多い。

## II 実践のねらい

本学級（3年生）は、何事にも真面目にとりくむことができ、友だちに優しく、活動に一生懸命とりくもうとする児童が多い。しかし、ペアやグループの活動になると、特定の友だち以外とはかかわろうとせず、グループが気まずい雰囲気のまま活動を終えてしまうことがあった。

生活アンケートを行うと、学年になかのよい友だちがいると回答した児童が81%だったのに対し、学級になかのよい友だちがいると回答した児童は52%だった。また、どの友だちとも楽しくかかわれるかという質問に、かかわれると回答した児童は44%だった。このことから、本学級の児童は、学年にはなかのよい友だちがいるものの、学級にはなかのよい友だちが少ないことがわかる。これはクラス替えのためか、新しい友だちとかかわる経験が少ないため、友だちとかかわるよさに気付いていないことが予想された。そのため、友だちとかかわることで気まずい関係になってしまうことを恐れて、自分から友だちとかかわろうとすることがお互いにできず、友だちを自ら遠ざけてしまっているのだと考えた。

そこで、まずは安心して友だちとかかわれる雰囲気をつくりたい。そして、さまざまな友だちとかかわるよさや、たくさんかかわるよさに気づき、友だちとかかわることは楽しいことだと思えるようにしていきたいと考えた。

## III 実践の方法

### 1 対象 3年3組 27人

### 2 基本的な考え

はじめに、安心して友だちとかかわれるようにするためには、温かい雰囲気づくりが必要だと考え、日常実践「今日のキラリで賞」を行う。次に、気づきワーク「みんなは編集長」「ここのお店は何だろう」を行い、友だちと協力しながら活動することの楽しさと達成感を味わい、友だちとかかわることのよさに気付けるようにする。最後に、「ミッションビンゴ」の実践を行い、さらに多くの友だちとの活動を通して、かかわることのよさを実感し、友だちと楽しくかかわることができる児童を育てたい。

### 3 各実践のすすめ方

#### 実践1 日常実践 「今日のキラリで賞」

【ねらい】 友だちのよいところを見つけ発表することで、児童が互いを認め合う温かい学級の雰囲気をつくり、安心して友だちとかかわれるようにする。

【方法】 ① 日直が、友だちのよい行動・言動（「すごいね」「ありがとう」「がんばっているね」などという言葉にあてはまると児童が思ったこと）を見つけ、「ミニ賞状」に書く。

② 帰りの会のときに全員の前で発表し、「ミニ賞状」を手渡しする。

③ 発表後に学級の全員で拍手をし、その児童と発表した児童を称賛する。

【留意点】 ミニ賞状に書く内容の幅が広がるように、また賞状をもらえない児童がいないように、教員が定期的にさまざまな場面のよい行動や言動を見つけ、発表する。また、友だちが発表した内容は否定せず、受け入れて、称賛することの大切さを伝える。

#### 実践2 “授業実践①” 気付きワーク「みんなは編集長」

【ねらい】 友だちと協力して活動にとりくむうれしさや楽しさを味わい、友だちとかわるごとのよさに気付くことができる。

【方法】 ① ルールを確認する。

**ルール1** 配られたカードは、5人で共有するカードと自分のもの以外は見てはいけない。

**ルール2** 話し合ごとき、メモをとってはいけない。

② 意見を聞くことを意識し、グループで協力してとりくむことを確認する。

③ 4人グループにイラストの描かれたカードを5枚（一人一枚と、5人で共有できるカード一枚）を配り、全員でつなげて一つのオリジナルストーリーを完成させる。

④ 振り返りを行い、よかったことや気付いたことを話し合ごう。

【留意点】 絵をつなげる際、話がつながっていればどの並びでも間違いではないことを伝え、全員で話し合ごい、話をつなげることを意識させるようにする。

#### 実践3 “授業実践②” 気付きワーク 「ここのお店はなんだろう」

【ねらい】 友だちと協力して話し合ごう活動にとりくみ、友だちとかわるごとのよさに気付くことができる。

【方法】 ① ルールを確認する。

**ルール1** 情報カードはグループで一人ひとりの枚数が均等になるように配り、自分のカード以外は見てはいけない。

**ルール2** グループの情報をもとに地図を埋めるが、話し合ごう際メモを取ってはいけない。

② “友だちの” 意見を聞くこと、“自分が” 意見を出すこと、“全員の” 意見をまとめることを意識し、グループで協力してとりくむことを確認する。

③ 4人でグループになり、お店がならんでいる白地図と、情報カードを1セットずつ配り、話し合ごうて白地図のお店の欄に名前を正しく埋めていく。

④ 振り返りを行い、よかったことや気付いたことを話し合ごう。

【留意点】 意見を聞くだけでなく、意見を出すことやまとめることにも意識がむくように、「一番意見を出した人」や「一番意見をまとめた人」を尋ねるワークシートを配付する。また、協力し、達成感を味わうことが目的のため、正解や不正解にこだわり過ぎないように声掛けを行う。

#### 実践4 “授業実践③” かかわりワーク「ミッションビンゴ」

【ねらい】 さまざまな友だちとかわり、かわる楽しさやよさを実感することで、友だちとかわりたいという気持ちを高めることができる。

- 【方法】 ① 毎朝、一人ひとりに違うビンゴカードを配る。出席番号が書かれた自分のビンゴカードと、本日のミッションを確認する。本日のミッションは、友だちとじゃんけんやハイタッチをする「じゃんけんハイタッチ」や友だちの休みの過ごし方を尋ねる「友だちの休みを調査しよう」などがある。
- ② 休み時間を利用して、自分のビンゴカードに書かれた出席番号の人とミッションを行い、クリアできたら丸をつけ、多くのビンゴをめざす。
- ③ ビンゴができれば、「絆メーター」にシールを一枚貼り、たくさんビンゴが増えることで絆メーターを貯めるようにする。貯まった絆メーターを見て、たくさんの人とかかわることの気持ちよさと達成感を味わう。
- 【留意点】 ビンゴカードに書かれた出席番号は、男女比や話しやすい人などを配慮するため、教員が児童のカードの状況を確認して記録しておく。また、ビンゴカードの真ん中は教員のマスにし、必ず一回はミッションがクリアできるようにする。
- 朝の会の5分間と、休み時間にとりくむことを伝え、声を掛けられたら快く応じるように約束する。

#### IV 実践の内容

##### 1 日常実践 「今日のキラリで賞」【5月～】

本年度、わたくしが担任することとなった学級は、何事にも真面目にとりくむことができ、友だちに優しく、活動に一生懸命とりくもうとする児童が多い。しかし、4月にグループ活動を行うと沈黙が学級全体を包んだ。そこで、児童にどうしたのか尋ねると、児童本人も理由がわからないようだった。

Aにも同じように尋ねると次のような答えが返ってきた。

|     |                                    |
|-----|------------------------------------|
| 教員： | Aさんグループ活動盛り上がっていないみたいだったけど何かあったかな。 |
| A：  | いや。特になにも・・・                        |
| 教員： | Aさんは友だちと楽しく活動できたかな？                |
| A：  | 友だちとは楽しくしたかったんだけど、なんだかうまくいかなかったんだ。 |
| 教員： | Aさんはだれとなかよしかな。                     |
| A：  | Bだけど、学級がはなればなれになっちゃったんだ。           |

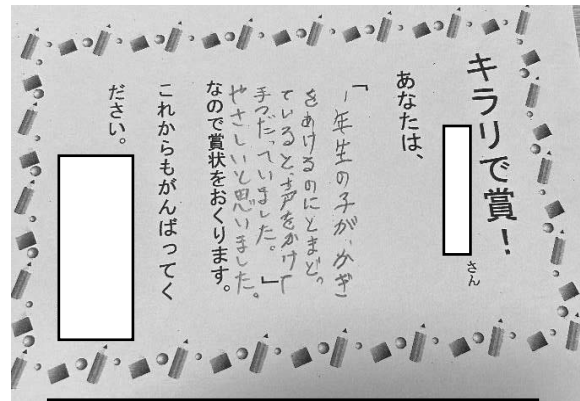
Aは、友だちと積極的にかかわることができない児童である。一方で、友だちと一緒に遊びたいとは考えているようだった。Aはクラス替えによってなかのよい友だちと学級が離れてしまい、一緒に過ごす友だちがいないようだった。学級を見渡すと同じような児童が何人かみられた。一人でいる児童の様子を見ていると、まだまだ学級に安心していないようだった。

そこで、まずは安心して友だちとかかわれるようになる必要があると感じ、「今日のキラリで賞」の実践を考えた。そして、朝の会で「今日のキラリで賞」の活動の説明をした。

説明後、教員が見本として、「黒板を消すのを手伝ってくれてうれしかった」「学級委員の仕事をがんばっていてすごい」という内容の賞状を発表し、児童に手渡した。もらった

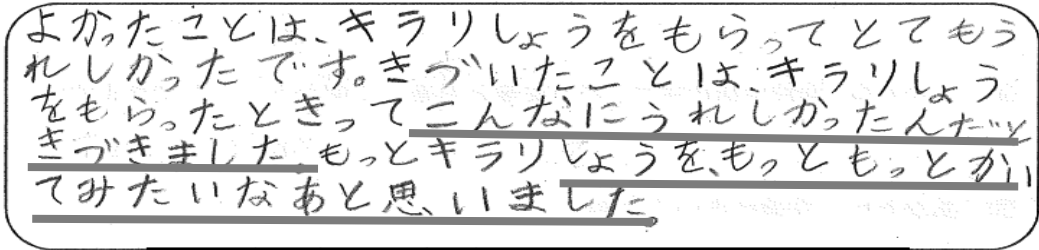
児童や、それを見ていた児童みんなが笑顔になり、「楽しそう！早く賞状を書きたい！」と意欲的に友だちのよいところを見つけ始める姿がみられた。

しばらく実践を行っていると、さまざまな場面で友だちのよいところを見つけて、発表することができるようになった。1年生が困っているときに声を掛けている場面を賞状に書いて発表する場面があった。賞状をもらった児童は、「見てくれている人がいるのはうれしい」と、自分のがんばりを周りが評価してくれることにうれしさを感じている様子が見られた。また、自分も同じように友だちのよいところを見



児童が書いた「キラリで賞」

つけたいと「先生、家に持って帰って賞状を書いてもいいですか？」「一度に何枚か賞状を書いて発表してもいいですか？」とより意欲的に活動にとりくむ姿や、日直ではないが発表したいという児童の姿もみられ、学級の雰囲気はとてもよいものになっていった。友だちがいなかったと言っていたAも「キラリで賞」をもらったときの様子を「こんなにうれしかったんだときぎきました」と感想で答え、さらには友だちにも「キラリで賞」を書いてあげたいと感じていた。これは少しずつではあるが、Aが安心して友だちにかかわれるようになりつつあるのではないかと感じた。



Aが書いた「キラリで賞」の感想

## 2 授業実践1 気付きワーク「みんなは編集長」 【6月】

友だちと安心してかかわれる児童が少しずつ増えてきているように感じたので、今度は友だちとかかわるよさに気付いてほしいとわたくしは考えた。そこで、気付きワーク「みんなは編集長」を行うことを児童に伝えた。

活動の説明をしても、「難しそう」「どうしたらいいのかな」と不安そうにしているグループがあった。活動の時間になってもなかなか話し合いがすすんでいないようだった。そこで、まずはそれぞれがどんなカードを持っているかを聞くとよいことを伝えた。すると、それぞれのグループが思い思いのやり方で、自分のカードにどんな絵が描かれているかを一生懸命に説明する姿がみられ始めた。

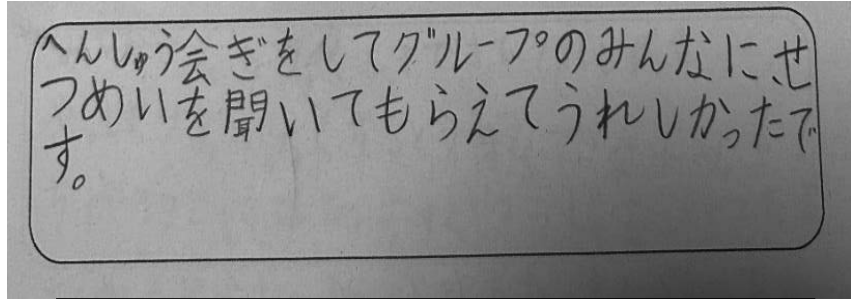


自分のカードに描かれている絵を説明する児童



話し合いがすすむにつれて、「〇〇さんの絵の様子から、こっちの方が面白そうじゃない!」「それいいね!そうしよう!」と意見を出し合い、楽しくストーリーを話し合う姿がみられた。どんなストーリーになったかを確認する時間では、「おおピッタリだね!」や「思っていたのと少し違うけど、いいね!」と自分たちや他のグループが完成させたストーリーを見て、みんなで楽しむことができた。

活動の振り返りでは、「みんなで話しかけて楽しかった」「みんなに説明を聞いてもらえてうれしかった」と、活動を通して、自分の意見を聞いてもらえることのうれ



Aが書いた「みんなは編集長」の振り返り

しさや、友だちと活動することの楽しさを感じることができた様子だった。Aも、話を聞いてもらえたことがうれしかったようで、友だちと楽しく活動する様子が見えかけた。Aも4月より学級内の友だちと一緒にいる姿をよく見るようになった。

3 授業実践2 気づきワーク「ここのお店は何だろう」 【6月】

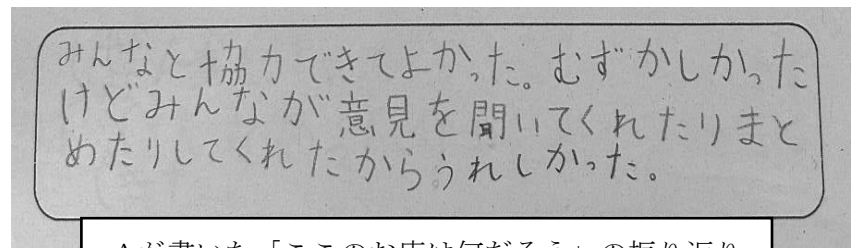
「みんなは編集長」の活動を行った結果、多くの児童が友だちと活動することのよさに気づき始めているようだった。一方で、まだまだ新しい学級の友だちとのかかわりのよさを感じられていない児童もいた。そこで、さらに気づきワークを行うことに決めた。今度は、「みんなは編集長」とは違うメンバーで活動を行うこと

|                            | しつもん                    | 名前 |
|----------------------------|-------------------------|----|
| 1                          | たくさん意見を出したのはだれですか?      |    |
| 2                          | みんなの意見を聞いてくれたのはだれですか?   |    |
| 3                          | みんなの意見をまとめようとしたのはだれですか? |    |
| 意見を出すことやまとめることに意識が向くワークシート |                         |    |

にした。「気づきワーク」を行うことを児童に伝えると、前回の「みんなは編集長」でかかわるよさを感じた児童から、喜びの声が聞こえた。今回は活動の前に、「意見を出すこと」、「意見を聞くこと」、「意見をまとめること」の大切さを確認してから活動にとりくんだ。

活動が始まるとどのグループも、「自分がまとめ役するね」「ぼくは話し合いをすすめるね。〇〇さんからどんなカードがあるか言っていこう」と、役割分担をしているグループが多く、みんなで話し合っ活動すすめている様子がみられた。また、「みんなは編集長」と比べると内容が難しいので、児童は悩みながらも多くの意見を交わしていた。

答え合わせの時間では、正解したグループはみんなで喜び合い、間違っていたグループはみんなで悔しそうな表情を浮かべ



Aが書いた「ここのお店は何だろう」の振り返り

ていた。しかし、誰かを責める様子はなく、「〇〇さんの言っていたことが正しかったね！ごめんね」「全然いいよ！」という会話が聞こえてきて、悔しそうながらも、どこか楽しそうな様子が伝わってきた。

振り返りでは、「みんなで協力したから正解することができた。とても楽しかった」「間違ってしまったけど、みんなと楽しくできてよかった」と、みんなで協力することで活動が楽しくなることに気付けた児童が多くいたように思う。また、意見を出した人、意見を聞いた人、意見をまとめた人を振り返る時間では、「グループ全員を書いてもいいですか？」や「自分を書いてもいいですか？」と質問する児童もいて、多くの児童がそれぞれを意識して話し合いを行うことができた。Aも、たくさんの意見を出して友だちと協力することができ、より友だちと楽しくかかわる姿がうかがえるようになった。

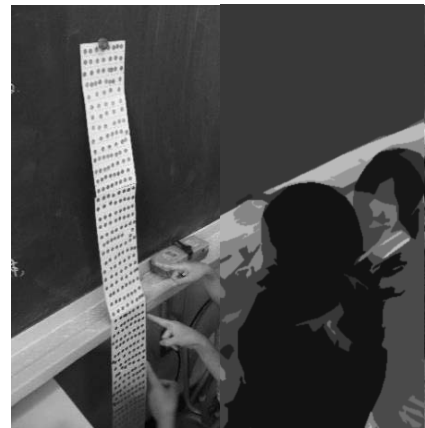
#### 4 授業実践3 かかわりワーク「ミッションビンゴ」 【7月】

気付きワークの成果もあり、友だちとかかわるよさに児童の多くが気付いているようだった。そこで、さらに児童のかかわり合いを増やし、自分からかかわりにいけるようにしたいと考えた。そこで、かかわりワーク「ミッションビンゴ」の実践を行うことに決めた。実践初日、活動の説明をすると、「楽しそう！」と、活動にわくわくする児童の姿がみられた。初めのミッションは、ゲーム感覚でできる楽しい活動を設定し、児童が楽しく活動できるようにした。ビンゴカードを配ると「〇〇さんとだ！」と誰と活動するか楽しそうに確認し、どの児童も自ら友だちに声を掛けて活動を行う姿がみられた。

また、友だちと協力し、楽しくかかわることができる姿が「絆」であると児童と話し合った。1ビンゴを「1絆」として、みんなで「絆メーター」を貯めようと伝えた。すると、児童はより張り切って活動にとりくみ、楽しそうに「絆メーター」を貯める姿がみられた。

活動の回数を重ねる度に、「今日はどんなミッションかな！」「誰と活動できるかな？」と、誰とどんなミッションができるかを楽しみにする児童の姿が多くみられた。

振り返りでは、「これまであまり話したことがなかった友だちともなかよくなれた」「もっと友だちと話したいと思った」と、これからはさまざまな友だちとかかわりたいと思うことができた様子だった。Aは、絆メーターから、友だちとさらになかよくなることができたと実感することができ、友だちとかかわることのよさに気付くことができていた様子だった。また、毎日のミッションを、「今日は誰とかな？」と、さまざまな友だちとかかわれることに楽しさを感じる姿がうかがえた。



「絆メーター」を見て、喜ぶ児童

#### ミッションのお題

- ① じゃんけんハイタッチ
- ② 3文字しりとり
- ③ 秘密道具で1つ出してもらおうとしたら何？
- ④ 友だちの休みを調査しよう
- ⑤ 夏休みに楽しみなことは？
- ⑥ 今日の調子はどう？
- ⑦ その子のよいところを2つ伝えよう

## V おわりに

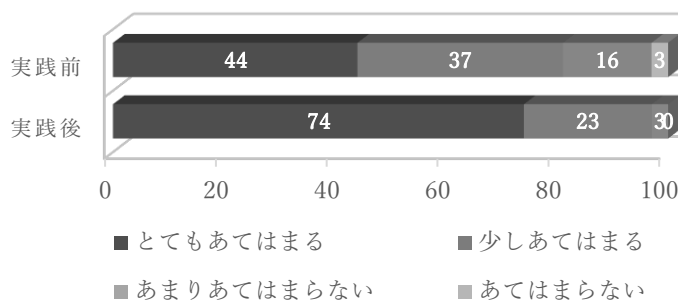
グループ活動で孤立する児童や、特定の友だちとしか話さない児童はあまり見かけなくなった。また、係活動や、席替えで隣になった友だちなど、不規則に組まれた友だちどうしても、楽しく活動する姿がみられるようになった。

やってみたらたことはもっと「ミッションビンゴ」を  
やりたかったなあと思っただことです。きずなメー  
もたまたま、みんなともなかよくなれたきもち  
になれてとてもうれしかったです。きずなメー  
ことはみんなともなかよくなるのはほんまに  
たいせつなんだなと思いました。

Aが書いた「ミッションビンゴ」の振り返り

再び、アンケートを児童に行った。学級に仲がよい友だちはいますかという質問に、52%→96%、という結果だった。さらに、どの友だちとも楽しくかかわることができるかという質問では、実践前と比べてあまりあてはまらない、あてはまらないと答え

### どの友だちとも楽しくかかわることはできますか



た児童が減った。このことから今回の実践を通して児童は、協力したり、声を掛け合ったり、安心してさまざまな友だちと楽しくかかわることで、それが、自分にとっても友だちにとってもよい事であると気付くことができたのではないだろうか。

7月、Aがわたくしのところへやってきた。

A : 先生、夏休みが本当は嫌なんです。

教員 : どうしたの？

A : みんなといろんなことをやってすごく楽しかったから、もっと一緒にいたいです。

教員 : そうだったんだね。2学期もみんなでいろんなことをして楽しみましょう。

A : うん！楽しみにしてる！

周りにいた児童も「そうそう！」と共感し、1学期の思い出を話し合い始めた。Aが、友だちとかかわって楽しかったという思いが聞けたこと、そしてそれを友だちどうして共有し、共感し合っていることがなによりうれしかった。2学期も、Aが、そして学級の児童が、友だちとたくさんかかわり合い、みんなで活動すると楽しいという経験を積み重ね、「友だちと楽しくかかわってよかった」と思える児童を一人でも多く増やしていけるように、実践を行っていきたい。